

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-135	13-060	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Dental hospital admissions in the children of mothers with an alcohol-related diagnosis: a population-based, data-linkage study. アルコール関連疾患の診断を有する母親の子どもの歯科入院：一般集団における研究		
<b>執筆者</b>		
O'Leary CM, Slack-Smith LM.		
<b>掲載誌</b>		
J Pediatr. 2013 Aug;163(2):515-520.e1. doi: 10.1016/j.jpeds.2013.02.020. Epub 2013 Mar 20.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール関連疾患、歯科入院、胎児アルコール症候群		23522379
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 母親のアルコール使用障害と 5 歳までの子どもの歯科入院との関連を調査することを目的とした。</p> <p><b>方法：</b> 出産に関する悉皆登録である Midwives Notification System (1983 年～2002 年) を用いて ICD9、ICD10 のアルコール関連疾患の母親を特定し暴露群（非アボリジニ、n=11,171；アボリジニ、n=8,145）とし、アルコール関連疾患の診断を受けていない母親を対照群とした。対照群（非アボリジニ、n=32,508；アボリジニ、n=16,719）は登録データから暴露群と出産年齢、アボリジニであるか、出産年でマッチされた。アウトカムは Western Australian data-linkage system を用いて同定した。歯科入院（曝露群の 3.2%；対照群の 3.0%）は、Hospital Morbidity Data (1983～2007 年) を、胎児アルコール症候群（n=84）は Western Australian Register of Developmental Anomalies のデータを用いた。歯科入院（ICD9：525-529；ICD10：K0-K14.9）のオッズ比と 95%信頼区間は、潜在的交絡因子を調整した一般化推定方式を利用し算出した。</p> <p><b>結果：</b> アルコール関連疾患の母親の子どもは、歯肉炎と歯周病の調整オッズ（オッズ比 1.67，95%信頼区間 1.12-2.51）と、口唇粘膜の「他の」疾患の調整オッズ（オッズ比 1.56，95%信頼区間 1.21-2.01）が増加した。唾液腺の疾患は、アルコール関連疾患の診断を有する母親のアボリジニの子どもにだけ増加した（オッズ比 2.65，95%信頼区間 1.09-6.44）。胎児アルコール症候群と診断された子どもは、いずれの歯科入院もオッズ比が増大した（オッズ比 2.58，95%信頼区間 1.30-5.11）。</p> <p><b>結論：</b> 母親のアルコール使用障害は、軟部組織疾患に関係した歯科入院と関連があった。しかし、胎児期のアルコール障害と将来の歯科入院との関連には疑問の余地がある。</p>		